

ありがとうをつたえたい!

共同募金は、地域の「ふれあいいきいきサロン」の運営費の一部にもなっています。身近な場所に気軽に集まれる居場所づくりの支援を継続して行っています。

100縁コーヒー砂子

協和区にある山車組の集会所(協和コミュニティ砂子会館)を利用して実施されているサロン。
毎週木曜日の午前中、楽しく笑顔で過ごせる場所づくりをしています。
脳トレをする人、おしゃべりを楽しむ人、気ままに過ごす皆の笑顔が溢れています。



代表 石原さんのお話

山車組のご支援もあり、私自身も、元気なうちに地域で楽しく活動できる場所を作りたかったんです。ここに来ることで参加者同士が顔見知りになり、近所で声を掛け合っている姿を見かけるようになりました。

コロナ禍でサロンを休止した時期もありました。再開後、足腰が弱ったり体調を崩したりして参加できなくなった方もみえて、定期的に出かける場所がある大切さに気がつきました。今後も感染予防対策をしながら、参加者のいきがいや、スタッフのやりがいを感じられるように継続していきたいです。



100縁コーヒー砂子スタッフのみなさま

サロン参加者の声

いつも夫婦で参加しています。家族以外の人ともお話できてうれしいです。

このサロンではいろんな人と会える。特技の木工細工、古着のリメイクなどをみんなに披露して、喜んでいただけました。



はなちゃん通信

248号

半田市社会福祉協議会だより



みなさまの募金が、半田市の笑顔と地域の絆をつなぎます。
半田市の赤い羽根共同募金

赤い羽根共同募金受付窓口のご案内

自治区加入のみなさまには、自治区を通じて募金にご協力いただいておりますが、その他にも下記の方法で募金を行っていますので、あわせてご協力をお願いいたします。

募金箱での募金 市内の企業・商店や郵便局、公共施設などにご協力いただき、募金箱を設置しています。

窓口での募金 半田市共同募金委員会(半田市社会福祉協議会内)にご持参ください。

インターネットでの募金 クレジットカード、ペイジーなどでも募金いただけます。
URL <https://hanett.akaihane.or.jp/donate/entry/100/23/23205/>



スマホからも募金できます。

募金活動期間
赤い羽根共同募金 令和4年10月1日～12月31日
歳末たすけあい募金 令和4年12月1日～12月31日

募金活動期間は上記のとおりです。半田市では、自治区を通して募金のお願いをさせていただいているため、募金活動期間が地域によって異なる場合があります。ご理解・ご協力をお願いいたします。

社会福祉法人 半田市社会福祉協議会 半田市雁宿町1-22-1(半田市福祉文化会館内) TEL.0569-23-7361

この広報紙は共同募金の配分金により作成しています。 2022.10



赤い羽根共同募金



- ① 自分の住んでいるまち(半田市)を「良くする」ために使われます
- ② 半田市にお住まいのすべての人たちの暮らしのために役立てられます
- ③ 災害発生時は「災害ボランティアセンター」の運営費として使われます

半田市の赤い羽根共同募金のつかいみち(一例)



互 いにささえあう
ふくし共育

お互いを知るために、障がいのある方等と一緒に学校の授業を行っています。



ふくし共育で一緒に学んだ子どもたちと、あいさつできる関係になりました!



近 所にある相談窓口

「ちょっと気になることがある」…相談員がお話を伺います。亀崎地区と成岩地区の2か所にあります。

家のそばに相談できる場所があったすかりました。



駅前ほうす(亀崎地区)

利 動も安心
福祉車両の貸出



車いすに乗ったまま利用できます。



家族がけがをして、車いす利用に。通院時にすぐに利用できました!

災 害時のつなぎ役
災害ボランティアセンター



災害時には災害ボランティアセンターを運営。支援を必要とする人とボランティアをつなぎます。



平時の備えとして、訓練も行っています。

募金のつかいみち、あれこれ 食の支援

「みなさまの気持ち」をお届けしています

「食の支援」が必要な世帯や子ども食堂を運営する団体に、みなさまの気持ちを「食品」に換えてお届けしています。これまでに延べ622世帯、321団体を支援しました。(令和4年7月末現在)

コロナ禍の影響を受け、半田市内でも、休業や退職を余儀なくされ、日々の生活や「食のこと」にお困りの方が急増しました。そこで「私たちのできるごとく」として、「食の支援」を目的とした「テーマ型募金」を実施。たいへん多くの方に賛同をいただきました。みなさまの募金が、これまでにどのように活用されたかをご報告します。



一世帯約2週間分としてお渡ししています。



子ども食堂では、会食ができなくなり、お弁当をお届けしています。

支援の輪を「広めたい

「食の支援」の必要性やその活動を知ってもらうため、キャラクターを設けてPR! キャラクターは市民のみなさまから募集し、投票により「はんだむすびん」に決定しました。



イベントに参加して、「食の支援」の必要性をお伝えしながら、投票を実施。



人と人、食べ物と人をむすぶよ!



災害用備蓄品の入れ替え

月2回定期で

みなさまの「お気持ち」が集まっています

「食の支援」の必要性が広まるにつれて、募金だけではなく、食品についても、定期的にご寄付いただける企業や個人の方が増えています。「食の支援」を安定的に継続するために、食品を保管する倉庫を借りることができました。

みなさまよりお寄せいただく食品等は、随時社協のブログで報告させていただきます。

半田市社会福祉協議会のブログ



山崎町にある食品倉庫。区画整理までの期間、活用します。